

高村光太郎選集
3

春
秋
社

高村光太郎選集 第3巻

一九六七年七月一日 第一刷発行

定価 一五〇〇円

著者
編者

©高村光太郎

吉本隆明

北川太一

鷺尾貢

発行者
印刷所

株式会社三陽社

東京都千代田区外神田二一八

発行所

春秋社

電話 二五五局九六一一五

振替 東京二四八六一

落丁・乱丁本はお取替致します

(小林製本)

NDC 918

[illegible]

翻
訳
詩

エブラハム リンカンの死 (ウオルト ホキットマン) 三
 (エミール ゼルハアラン)

風を称ふ 四

ミケランジュ 四

私の部屋 五

一九一五年の春 五

病院 五

葬式 五

清廉 五

月曜日のスケルツォ 五

白熊 六

氷上戯技 六

傷をなめる獅子 六

狂奔する牛 六

金 六

十大弟子 六

鯨		七〇
象の銀行		七三
苛察		七三
滑稽詩		七四
夜の二人		七六
聖ジャンヌ		七六
ミシエル　オオクレエルを読む		七八
雷獣		七八
深夜		八〇
火星が出てゐる		八一
偉大なるもの		八四
あなたはだんだんきれいになる		八五
無題		八六
懷ふ		八七
二つの世界		八八
怒		九〇

笑	九〇
二つに裂かれたベエトオフエン	九一
花下仙人に遇ふ	九三
エビグラム	九四
超現実派	九四
煩瑣派	九四
卑近美派	九五
新感覚派	九五
詩人	九五
美を見る者	九五
「詩」	九六
母をおもふ	九七
その年私の十六が来た	九八
北東の風、雨	九八
昔話	一〇〇
殺風景	一〇一

偶作十五	101
或る墓碑銘	107
冬の言葉	108
ぼろぼろな駝鳥	110
龍	111
短歌 千駄木町小学校附近	113
工房雑詠	114
随筆 彫刻的なるもの	115
随筆 成瀬前日本女子大学校長の胸像を作りながら	117
随筆 ロマン ロラン六十回の誕辰に	118
アンケート 世界平和の日	119
アンケート 私の好きな世界の人物	123
訳詩 Ara Pacis (平和の祭壇) (ロマン ロラン)	123
評論 楽聖をおもふ ベートオヴェン百年忌を迎へて	125
アンケート 新時代の女性に望む資格のいろいろ	126
随筆 ルイ十六世所刑の図	127

隨筆	人の首	一五
隨筆	雜記帳より	一四〇
隨筆	パンの会の頃	一四三
評伝	オオギユスト　ロダン	一四五
	序にかへて	一四五
	一、一個の全球	一五〇
	二、親ゆづり	一五三
	三、善い姉さんと腹の出た家と	一五五
	四、始まり	一五七
	五、実地修業	一五九
	六、修道院	一六三
	七、下働きと仕立女工	一六四
	八、総決算と新時代	一六六
	九、苦境と愉樂と	一六九
	十、振出しへ返る事	一七一
	十一、自己の道	一七四
	十二、「歩む人」と「地獄の門」と	一七六

十三、胸像群	一八〇
十四、記念像群及「バルザック」の彫刻的意義	一八三
十五、一九〇〇年以後	一九九
十六、晩年、死、死	一九四
十七、「小さい花子」 ^{フチトアサコ}	一九七
アンケート 余はかく詩を観ず	二〇一
アンケート 詩界に就いて	二〇二
評評 ホキツトマンの事	二〇三
一、自然現象	二〇四
二、先祖調べ	二〇七
三、和蘭のしわざとクエイカア宗	二二三
四、母	二二九
五、父、或る臆測	二三二
随筆 近状	二三七
随筆 百三十五番	二三八
書簡 更科源藏・真壁仁への書簡	二四〇

当然事	二四七
なにがし九段	二四九
あどけない話	二五〇
さういふ友	二五一
偶作二篇	二五三
無限軌道	二五四
夏書十題(抄)	二五五
(一生かかつて)	二五五
死ねば	二五六
無いからいい	二五六
一人づつが	二五六
同棲同類	二五六
何をまだ指さしてゐるのだ	二五六
或る日(昭和三年九月二十八日)	二五九
焼けない心臓	二六〇
触知	二六一

存在	二六一
旅にやんで	二六三
街上比興	二六四
その詩	二六五
首の座	二六六
人生	二六七
或る筆記通話	二六八
秋が来たんだ	二六八
激動するもの	二六九
或る親しき友の親しき言葉に答ふ	二七〇
孤独が何で珍らしい	二七一
のんきな会話	二七二
刃物を研ぐ人	二七二
籠球スナップ ショット	二七三
“Die Welt ist schön”	二七三
のつぼの奴は黙つてゐる	二七七

耳で時報をきく夜	二七九
冷熱	二八一
南極	二八二
機械、否、然り	二八四
友よ	二八五
一艘の船が二艘になること	二八六
似顔	二八七
不許士商入山門	二八八
美の監禁に手渡す者	二八九
卓上の七月——素描風なる日常詩——	二九〇
検温	二九一
ゆつくり急がう	二九二
レオン ドウベル	二九三
非ヨオロッパ的なる	二九四
もう一つの自転するもの	二九五
アンケート——断想——既成文壇の崩壊期に処す——	二九六

評論

日本語の新しい美を

三三

七、詩について

三二

六、書について

三二

五、映画について

三〇

四、音楽について

三〇

三、建築について

三九

二、彫刻について

三八

一、絵画について

三八

七つの芸術

三八

評論 正と謠と

三六

評論 詩について

三五

評論 詩そのもの

三四

隨筆 岸田劉生氏の死

三〇

評論 生きた言葉

三〇五

評論 触覚の世界

二九

隨筆 小父さんが溺れかけた話

二九七

評伝 エルハアラン……………三七

解題 1 成熟について……………吉本隆明 三三

解題 2 第三巻収録作品について……………北川太一 三六

高村光太郎選集

第三卷（大正二二～昭和八年）

